

報告**「王立科学博物館」巡回スタート！****～大きな宇宙の小さな巡回展 Part 1～**

小野 夏子☆

国立科学博物館で始まった企画展

世界天文年と日本天文学会の創立100周年を記念した巡回企画展が、東京・上野の国立科学博物館で始まりました。

「ガリレオの天体観測から400年 宇宙の謎を解き明かす」と題したこの企画展は、「宇宙の謎」をテーマにガリレオからすばる望遠鏡に至る光学望遠鏡の歩みとともに、さまざまな光（電磁波）で研究を進めている現代の望遠鏡。そして、明らかになってきた宇宙の姿や最新の宇宙像」について紹介するものです。

国立科学博物館での開催は、5月30日～7月20日。この後は、仙台、新潟、名古屋、大阪の各会場を巡回します。

お近くの会場でぜひご覧ください。

ささやかな予算と空間でも巡回できたら

こんな素敵な企画展は、大きな特別展示空間が確保され、それなりに予算がついている施設であれば、巡回の可能性のあるわけです。しかし、施設の規模が小さく予算も寂しい状態では、話にもなりません。

そこで「ちょっとした空間と低予算で気軽に開催できる巡回展」があれば、需要はあるのではないかと考えました。題して「大きな宇宙の小さな巡回展」です。

ここで思い出したのが、食玩「王立科学博物館」。数年前にコンビニなどでも売られていた宇宙開発関連などのミニ模型がガムのオマケに入っているものです。我が家には、全種類揃って押し入れで死蔵中(笑)。世界天文年の機会に役立てようと引っ張り出して参りました。

どこに許可をとるの？

市販のものを展示する場合、許可とかどうかのようです。発売元のタカラトミーと造形の海洋堂に問い合わせました。

結果、「買ったものを並べる」ということなら特に問題はないようでした。(例えば、「模型の写真を撮影してポストカードを作り販売する」というような場合には、別途確認がいるようです。)

展示しても構わないという結論に達しました。あとは、これらを飾ってくれる施設を募り、巡回です。費用は、送料のみ。模型の借用料金は頂きません。

早速、米子市児童文化センターで開催！

という訳で早速、「王立科学博物館」の巡回展を鳥取県の「米子市児童文化センター」で開催しました。この施設には、プラネタリウムがあり、展示は、プラネタリウムの入り口辺りにショーケースを置いて行われました。

時は、5月2日～31日の約一ヶ月間。ゴールデン・ウィーク期間であったこともあり、開催中にのべ8100名の来館者に展示をご覧頂くことができました。



図1 第一巡回会場 米子市児童文化センター

展示方法は、創意工夫で

今回、米子では、美術館からショーケースを借りその中へ展示していました。もちろん、施設によっては、ジオラマを作って展示して頂いても OK です。で、展示が終わったら、模型と一緒にジオラマも巡回させても良いかもしれません。巡回が進むにつれ展示品が雪ダルマ式に増える企画です（笑）。



図2 細かい部品を注意深く取り出します



図3 ショーケースに納められた模型



図4 付属のカードも展示しました



図5 展示をご覧になる来場者

Part1…ということとは？

今回の「王立科学博物館」は、送料 2000 円程度で開催できます。(ショーケースを借りる料金とかジオラマを製作する料金とかは、それぞれの施設で負担下さい。)

このほかにもご要望があれば、「大きな宇宙の小さな巡回展」の Part2 や Part3 を巡回させてゆきたいと考えています。みなさまのご意見、ご要望をお寄せ下さい。あ、展示をしてくださる施設も随時募集中です。(個人のを勝手に巡回しているのですから、貸し出し先に制限はありません。学校とかでも構いませんよ。)

追伸：米子で展示の終わった模型は、現在、和歌山県の「みさと天文台」で展示準備中です。

小野 夏子☆

謝辞：写真は、米子市児童文化センターの湯嶋稔氏より提供いただきました。